

V. 福島西道路

事例名称		事業分野・施設所在都道府県		事業主体		事業特性			調査範囲等	
Ⅵ	福島西道路	道路	福島	国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所	1998竣工、新規整備、P1の実施あり、大規模（地域全体へ影響）、地域住民以外の利用あり					
調査結果概要										
現地での調査		対象	手法	捉えられた効果		意識変化		活動変化		空間変化
利用者	利用者へのアンケート調査	地域住民（道路から鉛直方向に500m幅の範囲内）800世帯の全世帯 ・回収数：332通（回収率42%）	各戸への手渡し（不在時についてはポストイング）	○ゆとりある沿道空間が生まれた ○よい景観の道路ができた ○地域資源、環境に対する親しみ、愛着 ○地域資源に対する誇り ○対外的評価を受けたことに対する誇り	○新たな散歩コースになった ○沿道のあつまやや隣接する公園で過ごすようになった ○イベントに参加するようになった ○清掃などの維持管理活動に参加するようになった	○自宅（店舗）の建物の外観整備 ○植栽の配置				
	利用団体（個人利用者）へのヒアリング調査	①北森合自治会 ②福島市立清水中学校 ③泉扇田親和会 ④清水ほたるの会 その他個人利用者	ヒアリング	○よい景観の道路ができた ○地域資源、環境に対する親しみ、愛着	○新たにイベントを実施するようになった ○既存の維持管理活動のアップデートプログラムへの参加 ○既存の維持管理活動の、ボランティアサポートプログラム締結 ○沿道大型店舗による清掃活動開始 ○学校の恒例行事としての清掃活動の実施	—			—	
	定点観測調査	平日・土日の沿道利用者	沿道で定点観測	—	○散歩のルートとしての利用 ○休憩スペースや隣接公園での休憩 ○水生動物との触れ合い ○池に浮かぶゴミ拾い	—			—	
景観整備による効果				具体内容						
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・幅の広い歩道、ゆとりのある沿道空間が生まれた ・道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い								
	造形・施設・空間の印象評価	・全体的に印象の良い景観の道路である ・吾妻連峰の山並みや信夫山の、道路からのながめが良い ・緑豊かな沿道の植栽や草花が良い ・道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い ・地域の個性や歴史を感じる、ほたるの里公園やほたるのせせらぎ公園が良い								
	親しみ・愛着	・親しみ・愛着を感じる（「福島西道路の風景や、福島西道路からながめられる周辺の風景が好きだから」）								
	誇り	・誇りに思う（「他ではみられない風景をながめることができるから／先進事例として表彰されたことを新聞や広報などで知ったため」）								
利用者行動に与える効果	その他	・景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり（事業プロセスへの参加を通じて、等）								
	利用形態・頻度等の変化	・「ショッピングなどの目的地までの通り道」、「散歩等」、「清掃などの維持管理活動」、「休憩スペースや隣接する公園での休憩」の順に、利用機会の増大がみられる								
	商業活動の活性化	・開通イベントとしてJA主催の青空市開催								
	地域活動の活性化	・沿道残地を利用した「こどもでコンサルティング」の実施 ・市民的行事「ほたるの里夏祭り」の実施（ほたるの放流、地区の人によるほたるのイラストや写真の展示）								
	環境保全、学習活動	・地元中学校全校を挙げての、環境保全活動の定期的実施								
	施設を核とした避難体制の構築	—								
	近隣住民同士の会話の場	・沿道に植えた花木の育てかたなどについて、近隣住民同士、手入れをしながら語らう場となっている ・沿道の掃除仲間が新たにできた								
	利用ルールの形成	・地下歩道空間の使用・利用・清掃に関するルールの設定								
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・沿道緑地帯への花植え・草刈り等の手入れ（個人・団体両方）								
	清掃等の維持管理活動	・複数の町会各々による定期的な清掃活動 ・地元中学生によるボランティア活動（年中行事として） ・沿道の水神様への供物の交換								
その他	・地域活動団体の活動の発展（「清水ホテルの会」発足／既存の町内会等によるボランティア・サポート・プログラム協定の締結／市によるアダプトプログラム「ふくしまきれいにし隊」への参加）									
施設周辺の空間に与える効果	商業活動の変化	—								
	建物ファサード変化	・沿道建物の修景（塀の撤去）								
	軒先空間の変化	・軒先への植栽								
	周辺景観の改善	・枝線路地の修景 ・沿道地区内の水路整備								
	周辺施設の連帯性の向上	—								
	視点場の形成	—								
その他	その他	・整備時期と併せた、地区計画（福島西地区計画）の策定（一転じて、自宅（店舗）の建物の外観整備、自宅（店舗）の外周りに植栽配置・手入れ）								
	地場材の活用	・地場材（間伐材）でつくったファニチャーや、接道民家と歩道部との境界としての柵などの設置								
	他事業への波及	・外部表彰受賞（土木学会技術賞、平成8年） ・新聞や雑誌での記事掲載（道路供用時や供用後における各種イベント、地元学生によるボランティア活動の様子、委員会等に参加した沿道住民等のコメント） ・福島市・景観100選への選出（福島市都市政策部都市計画課、平成19年）								



▲自治会単位での清掃活動



▲沿道店舗の店員による路上清掃



▲残地を利用した地元イベント「みち空間・こどもでコンサルティング」



▲犬の散歩ルートとなっている残地部



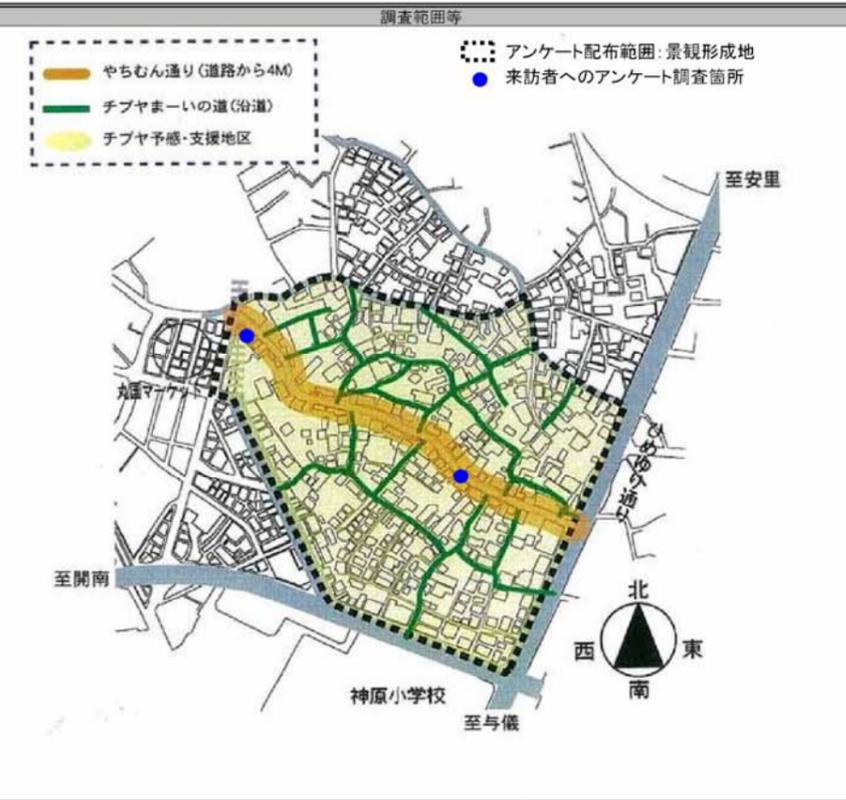
▲ザリガニ捕りの傍ら、池に浮かぶゴミを拾い集める地元の子供たち



▲沿道住民による、残地の花の手入れ

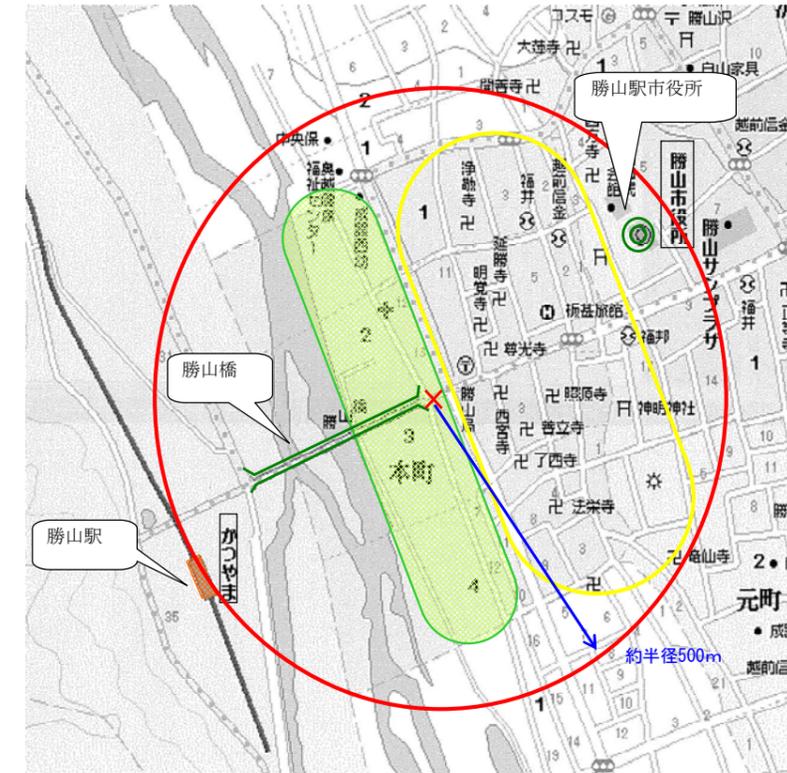
VIII. 壺屋やちむん通り

事例名称		事業分野・施設所在都道府県	事業主体	事業特性		
VIII 壺屋やちむん通り		街路・遊歩道 沖縄	那覇市	1998竣工、改修整備、P1の実施あり、地域住民以外の利用あり		
調査結果概要						
調査結果概要	現地での調査	対象	手法	捉えられた効果		
				意識変化	活動変化	空間変化
利用者	利用者へのアンケート調査	壺屋地区景観形成地区内全550世帯 ・回収数：191/550通 (回収率35%)	全戸ポスティング	○沖縄（壺屋）らしさを感じる ○歩きやすい ○地域の景観に対して愛着を持つようになった ○歴史的資源に対して誇りを持つようになった	○やちむん通りを歩く回数が増えた	
	観光客へのヒアリング調査	観光客 ・回収数：73票	ヒアリング形式のアンケート調査	○伝統的な雰囲気を感じる		
	利用団体へのヒアリング調査	やちむん通り会	当時の関係者にヒアリング	○歴史的資源に対して誇りを持つようになった	○観光客が増えた ○地域活動に参加するようになった ○清掃等の維持管理活動を行うようになった	
	定点観測調査	平日・土日	店舗の多い地点、通りの入口で定点観測		○緑陰で休憩するようになった	
施設周辺	現地調査（調査対象建築物・施設の抽出）	安藤先生・小野先生に教えていただいた対象				○道路と合わせた舗装 ○壺屋らしさを意識した看板 ○琉球赤瓦葺きの建築物 ○通沿いに面する敷地の緑化
	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	助成対象物件、現地調査で得た情報を対象にヒアリング	訪問ヒアリング			○道路と合わせた舗装 ○壺屋らしさを意識した看板 ○琉球赤瓦葺きの建築物 ○通沿いに面する敷地の緑化
行政	行政担当者・設計者へのヒアリング	安藤先生、小野先生 那覇市都市計画部 那覇市建設部	現地ヒアリング、訪問ヒアリング	○景観整備に対する意識の変化	○観光客が増えた	○道路と合わせた舗装 ○壺屋らしさを意識した看板 ○琉球赤瓦葺きの建築物 ○通沿いに面する敷地の緑化
景観整備による効果		具体内容				
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・歩きやすい（地元住民） ・石の上を歩くのが気持ち良い（観光客）				
	造形・施設・空間の印象評価	・やちむん通り全体について、印象が良い（地元住民、観光客） ・やちむん通りに「沖縄らしさ」を感じる（地元住民）				
	親しみ・愛着	・やちむん通りに対して親しみや愛着を感じる（地元住民） ・整備前よりも現在の方がやちむん通りに対して親しみや愛着を感じる（地元住民）				
	誇り	・やちむん通りに対して誇りを持っている（地元住民） ・車道まで琉球石灰岩を用いているのは壺屋だけなので、誇りに思う（自治会長など） ・以前のアスファルトから石畳に変わって、都心で琉球の歴史文化を伝える場所として重要な位置づけとしてガイドしている				
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・地元住民の最も多い利用形態は、「通勤・通学など目的地までの通り道」である ・観光客の利用形態は「買い物」「散歩」であった ・観光客による写真撮影				
	地域活動の活性化	・以前から行われていた「通り会まつり」に加えて、「シーサーの日」等のイベントが開かれるようになった ・個別に活動していた「自治会、組合、通り会、愛護会」が集まって「壺屋やちむん通りを考える会」が結成され、多いときは93人が自治会間に集まり、通りのあり方について議論した				
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・自宅や店舗の前の歩道空間やバルコニー等を積極的に緑化している ・昔からある木や古い石垣を保全している ・店舗前に、パーゴラの設置、ホウホウボク・ブーゲンビリアを植栽 ・店舗やマンションの前への花壇等の設置				
	清掃等の維持管理活動	・自宅や店舗前の歩道空間の樹木の手入れや清掃				
施設周辺の空間に与える効果	建物ファサード変化	・店舗のファサードの塗り替え				
	軒先空間の変化	・店の入口まで石灰岩で舗装、木の下にベンチ設置、店内を板張りに改修。 ・その他通り沿いで4件が助成を受けて改築				
	周辺景観の改善	・住民が自主的に昔からあった井戸を修景 ・那覇市の他地区の街路事業に琉球石灰岩を使用（首里城周辺の歩道）				
その他	地場材の活用	・琉球石灰岩の舗装への採用				
	外部の関心の高まり	・国土庁長官賞（平成11年）、土木学会デザイン賞（平成15年）受賞 ・整備されてから観光ガイドに載るようになった ・新聞でも多く取り上げられている（観光客の投稿、自治会の動き等）				

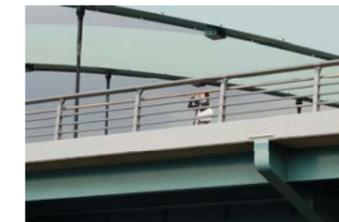


IX. 勝山橋

IX	勝山橋	橋梁・高架橋	福井	福井県	2000竣工、改修整備、大規模（地域全体へ影響）
調査結果概要					
利用者	現地での調査	対象	手法	意識変化	捉えられた効果 活動変化 空間変化
	利用者へのアンケート調査	地域住民（勝山橋周辺500m区域）	ポスティング	○勝山の風景を連想したときに勝山橋が含まれるようになった ○勝山橋のある風景に対して愛着を持つようになった ○歩いていて心地よい空間になった	○写真を撮る機会が増えたもしくは撮るようになった ○橋で立ち止まるが増えた ○橋詰広場で休憩するようになった ○橋上で立ち止まって風景を見るようになった
		一般市民（市役所、勝山駅、河川敷公園、橋上）	アンケート、およびヒアリング	○勝山の風景を連想したときに勝山橋が含まれるようになった ○勝山橋のある風景に対して愛着を持つようになった ○移動の目印にするようになった ○歩いていて心地よい空間になった	○写真を撮る機会が増えたもしくは撮るようになった ○勝山橋を利用する回数が増えた ○橋で立ち止まるが増えた ○橋詰広場で休憩するようになった ○橋上で立ち止まって風景を見るようになった
	定点観測調査	橋梁及び河川敷公園利用者	橋梁周辺で定点観測		○橋梁の利用状況を確認
行政	行政担当者へのヒアリング	福井県勝山土木事務所	ヒアリング	○景観整備に対する意識の変化	○商店街への入りロゲートの色彩変更について確認 ○桜並木延伸整備についての確認
		勝山氏建設課：松井氏	ヒアリング		
		勝山市市街地活性化推進室：池田氏	ヒアリング		
景観整備による効果		具体内容			
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・特に歩道空間について、安全性を含めた高い評価が得られている。			
	造形・施設・空間の印象評価	・良い評価が得られており、特に歩道空間に関する評価が高い。 ・一部では右岸の桜堤、周辺の山々と併せた風景として高い評価が得られている。			
	親しみ・愛着	・整備前と比較して愛着を持つようになった （一方で年配者層を中心に以前の廃止に対する愛着が強いという声も聞かれた）			
	誇り	・半数以上が整備前と比較して誇りを持つようになった。			
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・少数ながら、通勤・通学や買い物、散歩による利用や、橋上のベンチ利用、写真撮影の機会が増えている。 ・地域のウォーキングイベント「歩こう会」の散策ルートに含まれている。			
	商業活動の活性化	-			
	地域活動の活性化	▼イベント時の観覧席としての利用を想定していたが、現状では交通規制により通行止めとなっている。 ・地域のウォーキングイベント「歩こう会」の散策ルートに含まれている。			
	環境保全・学習活動	・小学校の学習の話題として取り上げられている。			
	施設を核とした避難体制の構築	-			
	近隣住民同士の会話の場	-			
	利用ルールの形成	-			
	樹木の手入れ・花壇等の設置 清掃等の維持管理活動	-			
施設周辺空間に与える効果	商業活動の変化	-			
	建物ファサード変化	-			
	軒先空間の変化	-			
	周辺景観の改善	・整備をきっかけとして関わりのできた専門家を交えた周辺整備の実施（堤防の照明整備、市街地の大清水、街路整備等）			
	周辺施設の連帯性の向上	-			
視点場の形成	-				
その他	外部評価の高まり	・外部表彰の受賞 ・知人からの高い評価			



▲ベンチで休憩している様子



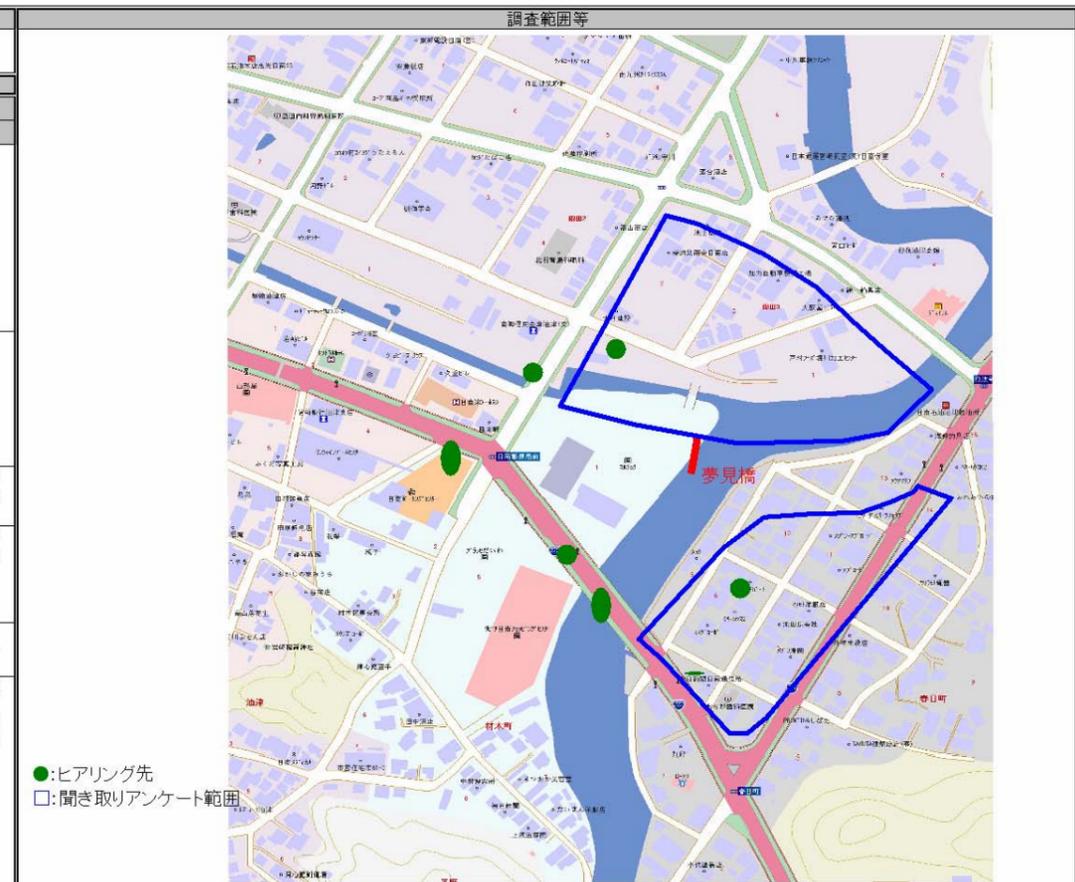
▲橋上からの写真撮影様子



▲大清水広場の整備

X. 油津堀川運河・木橋（夢見橋）

事例名称	事業分野・施設所在地	事業主体	事業特性			
X 夢見橋	橋梁・高架橋 宮崎	宮崎県	2007竣工、新規事業、複合的整備、PIの実施あり			
調査結果概要						
調査方法	対象	手法	捉えられた効果			
			意識変化 活動変化 空間変化			
利用者	利用者へのアンケート調査	夢見橋利用者聞き取りアンケート 回収：82票	現地で聞き取りアンケート	○飢肥杉や飢肥石により地域らしさを感じる ○地域のシンボルとなっている	○夢見橋を通勤・通学・近道等で利用している ○夢見橋周辺を歩く回数が増えた ○屋根付橋で休憩するようになった ○夢見橋から運河を眺める ○清掃等の維持管理活動	
	地元住民へのアンケート	①堀川運河沿い住民へのアンケート 回収20票 ②日南市油津地区住民1000人（無作為抽出） 回収324票	①現地で聞き取りアンケート ②郵送	○地域の景観に対して親しみ・愛着を持つようになった ○歴史的資源に対して誇りを持つようになった		
	利用団体へのヒアリング調査	NIC21メンバー 横店 写真館	関係者にヒアリング	○地域のシンボルとなっている		
	定点観測調査	平日・土日			○ピクニックとしての利用	○運河へ向いた建物（堀川に面した箇所に住宅の裏口を設置）
周辺施設	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	助成対象物件、現地調査で得た情報を対象にヒアリング	訪問ヒアリング	○地域の景観に対して親しみ・愛着を持つようになった ○歴史的資源に対して誇りを持つようになった		○運河へ向いた建物（堀川に面した箇所に住宅の裏口を設置）
	対象建築物等利用者等へのヒアリング調査	大日建設株式会社社員 南郷信用金庫社員 日南第一ホテル社員	訪問ヒアリング	○観光地としての紹介	○夢見橋周辺を歩く回数が増えた ○清掃等の維持管理活動	○公園に面した駐車場整備 ○公園に面した箇所に花壇を設置
行政	行政担当者・設計者へのヒアリング	宮崎県国土整備部 宮崎県油津港事務所 日南市建設課 日南市教育委員会 日南市役所商工観光課 小野寺氏 南雲氏 熊田原氏	ヒアリング		○観光名所として人が訪れるようになった（市外からの来訪者の増加） ○小学校の総合学習による現地見学 ○写真撮影 ○外部からの視察増加 ○講演依頼の増加 ○テレビや雑誌の取材増加	○国：国道の道路付属物の色彩を堀川運河の付属物に合わせた



景観整備による効果	具体内容
意識変化	<ul style="list-style-type: none"> 整備した空間の機能向上に対する認知 <ul style="list-style-type: none"> ・橋上にベンチが設置されているのが良い、ベンチからは周囲の風景を眺められるのが良い ・夢見橋に屋根がついているのが良い ・風通しがよくて過ごしやすい 造形・施設・空間の印象評価 <ul style="list-style-type: none"> ・飢肥杉や飢肥石を使用したのが良い ・まちづくり活動団体代表者は、夢見橋が「地域のシンボルとなっている」と感じている 親しみ・愛着 <ul style="list-style-type: none"> ・施工者（地元大工）は、本事業を通して、飢肥杉に対する想いが強まった ・近隣のホテル従業員は、夢見橋・堀川運河が整備されてから、宿泊客に堀川運河散策を推薦している。 誇り <ul style="list-style-type: none"> ・定点観測では、市外や県外の知人、親戚に夢見橋を紹介する地元住民が多く見られた その他 <ul style="list-style-type: none"> ・景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり（施工者の意識向上、住民・行政・設計者・施工者の信頼関係の構築）
利用者行動に与える効果	<ul style="list-style-type: none"> 利用形態・頻度等の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・屋根付橋のベンチで休憩する人が多く見られた。 ・観光名所として人が訪れるようになった（市外からの来訪者の増加） ・観光バスが停留するようになった（観光名所のひとつとなっている） ・堀川運河の観光ツアーの申し込みが増加した 地域活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と住民、木橋建設関係者を中心とした「堀川に屋根付き橋をかくつかい実行委員会」の結成 環境保全・学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での総合学習での見学対象（子どもたちと事業者、施工者との交流にもつながる） 清掃等の維持管理活動 <ul style="list-style-type: none"> ・清掃等の維持管理活動が行われている（地元住民の自主的清掃活動、近隣する銀行の清掃コース変化、近隣する建設会社が会社周辺のゴミ拾いを開始）
施設周辺の空間に与える効果	<ul style="list-style-type: none"> 建物ファサード変化 <ul style="list-style-type: none"> ・堀川に面した箇所に住宅の裏口を設置。 軒先空間の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の銀行では、公園に面した駐車場の舗装をきれいに整備した ・近隣の銀行では、公園に面した箇所に花壇を設置 ・運河沿い住宅では、住宅前の堀川護岸（芝生）の自主的な維持管理。また、ベンチなどを設置している 視点場の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・夢見橋に向けて、自宅の庭にベンチを設置した その他（良好な景観形成に寄与する制度への波及） <ul style="list-style-type: none"> ・日南市では、本事業で契機に景観条例を策定した ・日南市では、飢肥杉課設立し、飢肥杉のプロモーションなどを行っている ・国は、国道の道路付属物の色彩を堀川運河の付属物に合わせた
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地場材の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・地場材に関する新技術の発明 ・地場材に関する技術の伝達（小学校での総合学習を通じて） ・地場産業に関わるPR活動の展開（市役所に設立された「飢肥杉課」を通じて） メディア露出 <ul style="list-style-type: none"> ・外部からの視察増加 ・施工者への講演依頼が増加 ・テレビや雑誌の取材増加 ・日南市のHPによる紹介



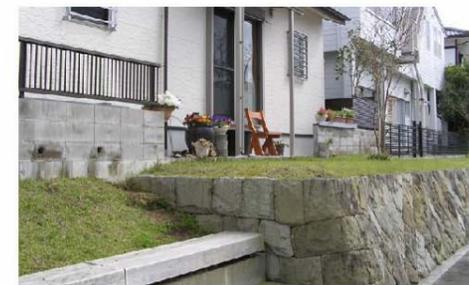
▲橋上のベンチで休憩する様子



▲駐車場の舗装を整備した建物



▲屋根付き橋の下でお弁当持参のピクニック



▲夢見橋に向けて設置されている椅子